

2024年度 市立函館高等学校 シラバス							
教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任		
理科	化学（後半）	4	3年次		藤井隆徳・小川英之		
使用教科書	化学（数研出版）		使用副教材	大学入学共通テスト対策問題集 化学（実教出版） リードLightノート（数研出版）			
科目の目標				道徳教育のねらい			
化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				物質の多様性や、人間生活との関わりについて正しく理解することで、現代社会において生きる力を養うとともに、科学リテラシーを育む。			
学習活動内容		育てたい6つの力（資質・能力）					
		1	2	3	4	5	6
		主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自己認知・協働力	計画実行力
1	物質の変化		○	○			○
2	無機物質		○	○			○
3	有機化合物	○	○	○		○	
4	高分子化合物		○	○			
5	グループワーク	○			○	○	○
6	考査		○				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか。 また、自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けているか。		自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているか。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているか。		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。						
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料
	知識・技能	○	◎			○	
	思考・判断・表現	◎		○	○		○
主体的に学習に取り組む態度	○	○			○	◎	

化学（後半） 授業計画							
授 業 計 画					実 施 状 況		
	月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡	化学平衡の状態とは何かを学んだ後、平衡定数を用いると平衡時の各物質の物質質量や分圧が求められることについて学ぶ。	可逆反応と化学平衡 平衡状態の変化 電解質水溶液の化学平衡	2 5 9		
	5	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	有機化合物の性質や反応を観察・実験などを通して探求し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の分析	2 3		
	6	前期中間考査					
	7	第2章 脂肪族炭化水素		飽和炭化水素 不飽和炭化水素	3 3		
		第3章 アルコールと関連化合物		アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸 エステルと油脂	3 3 3 3		
		第4章 芳香族化合物		芳香族炭化水素 フェノール類と芳香族カルボン酸 芳香族アミンとアゾ化合物 有機化合物の分離	3 3 3 3		
		8		第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	高分子化合物の構造と性質 糖類 アミノ酸とタンパク質 核酸	2 3 3 2	
	9	第3章 合成高分子化合物		合成繊維 合成樹脂 ゴム	3 3 3		
				前期期末考査			
	後 期	10		第3編 無機物質 第1章 非金属元素	無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探求し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	元素の分類と周期表 水素・貴ガス元素 ハロゲン元素 酸素・硫黄 窒素・リン 炭素・ケイ素	2 2 3 3 3 2
11		第2章 金属元素(I) －典型元素－		アルカリ金属元素 アルカリ土類金属元素 アルミニウム・スズ・鉛		3 3 2	
		第3章 金属元素(II) －遷移元素－	遷移元素の特徴 鉄・銅・銀・金 亜鉛・クロム・マンガン 金属イオンの分離・確認	2 3 2 3			
			後期中間考査				
12		共通テスト対策 他				7	